

注意

前回の課題で参照した大阪市のハザードマップは、水害ハザードマップと津波ハザードマップで、水害ハザードマップの浸水の要因としてあげられていた大和川、淀川、内水は、大雨によってそれらの河川が氾濫することによって浸水する範囲が示されており、津波によってそれらの河川が氾濫することを示したものではない。津波による浸水の範囲は、津波ハザードマップに示されたもののみである。

2011/5/18 の質問への回答

・大阪にはどうして 0メートル以下の地域が多いのか？

→大阪平野は、上町台地を除いて、比較的新しく（縄文時代以降に）堆積した平野であるために、もともと海面との標高差がなかった上に、地下水のくみ上げによって地盤沈下が進んだために、0メートル地帯が広く形成された。

・本当に天王寺には津波は来ないのか？

→本当に津波が来ないと納得するためには、津波の仕組みと大阪の地形をしっかりと勉強するしかない。

・東北大震災のような津波の被害を出さないためにできることはあるのか？

→海に面した標高が低い土地は利用しないことにしたり、大規模な防潮堤を建設したりすることは被害を出さないためには有効であるが、それができるかどうかは、それをする人次第である。

・津波が来るのは大阪府のどのあたりまでか？

→大阪市の津波ハザードマップが公開されているので、それが目安になる。

・等高線が直角になっているところは人工的なものか？

→多くは、人工的に地形改変がなされたところである。

・大阪城跡から南に高いところがあるのはどうしてか？

→この高いところは上町台地と呼ばれており、その西端付近に上町断層と呼ばれる活断層があり、その活動によって高くなっている。

・岸和田市に津波は来るか？

→来る。津波ハザードマップも公開されている。

・かなりの確率で水没してしまう大阪駅周辺で現在開発が進んでいるが、何か対策があつての開発なのか？

→とりたてて新たな対策はしていないと思う。

・津波が来た場合、一番安全な避難場所はどこか？

→大阪市の津波ハザードマップが公開されているので、それが目安になる。

・波の高さが 3-5m であっても、波の速さと等によっては 10m の高さまで来ることはあるか？

→地形によっては波は高くなる。

・どうしてこんなに標高が低いのか？

→大阪平野は、上町台地を除いて、比較的新しく（縄文時代以降に）堆積した平野であるために、もともと海面との標高差がなかった上に、地下水のくみ上げによって地盤沈下が進んだために、0メートル地帯が広く形成された。

・津波が来たら川はどうなるのか？

→ある程度（数 km 以上）上流まで波が遡上する。

・梅田付近は浸水深が深くなるが、逃げるよりも高いビルに避難した方がよいのか？

→逃げる時間があれば逃げた方が安全であろうが、時間がなければ鉄筋コンクリートの少なくとも 3 階建て以上のところは比較的安全である。

・縮尺がよくわからない

→縮尺の大小は数値の代償と同じで、10ぶんの1(0.1)は100分の1よりも10倍大きい。

・地震や津波の対策はどうして先手先手にできないのか？

→地震が起こるまでは、地震や津波対策はムダとしか思われないので、起こるまでは対策がなされないことが多い。

・どうして大阪城をもっと内陸にしなかったのか？

→当時は水上交通が盛んであったようなので、できるだけ海に近い方が便利だったからではないか。

・標高0m以下の地域でも浸水しないと予想されている地域があるのはどうしてか？

→堤防などに囲まれているため。

・ハザードマップで浸水が予想されている地域ではどのような対策がなされているのか？

→大正区などでは避難ビルを決めたりしているようであるが、何もしていないところもあるであろう。

・くぼんだ地域(0m以下の地域)では、浸水した場合、水が蒸発するか動力を使うかしないと水はなくなるのか？

→水が蒸発するか動力を使うかしないと水はなくなる。

・標高5m以上のところにいて津波が発生した場合、どこに避難したらよいか？

→24時間くらいじっとしているのが安全である。

・絶対に安全だと言えるのは何m以上か？

→絶対に安全といえる高さはない。絶対に安全といえるのは科学以外のものである。

・もし、さらに大きな津波が来て上町台地を超えたら鶴橋などの低い土地に水がたまってしまうのか？

→たまってしまう。

・内水とは何か？河川などを内水という意味とは違うのか？

→内水はいくつかの意味でつかわれており、一般には国家の領域内にある河川、湖沼や内湾の水を指すが、河川や洪水に関わる分野ではこれとは異なる意味でつかわれており、大きな川へと排水する小さな川の水を意味する。このハザードマップにみられる内水は、大和川と淀川に注ぐ中小の河川や水路の水を示しており、それらの氾濫を内水氾濫と呼びそれによる浸水予想範囲が示されている。

・津波によって河川が氾濫した場合、標高が高い土地は無事か？

→標高が低い土地よりは安全である。